

## 国立音楽大学同調会主催 ホームカミングデイ 2019 報告

2019年11月2日(土)、国立音楽大学芸術祭1日目に盛会裏に終了いたしました。  
ご来場くださったみなさま、ありがとうございました。

### ホームカミングデイ 2019

国立音楽大学同調会が主催する『ホームカミングデイ』。国立音楽大学を卒業した同窓生の方々が、学科や専攻、地域や年代の枠を超えて母校に集い、恩師を交え親睦を深める会です。第9回を迎えた今年は、大学の学生による芸術祭の初日に行われました。当日は晴天に恵まれ、キャンパス内は大賑わいとなりました。

参加総数は127名。例年に比べると大勢ではありませんでしたが、北は北海道、南は大分まで、全国各地からお越しくださいました。

卒業年で見ると、1947年から2018年まで約70年間の卒業生が集い、専攻別には参加数順に音楽教育、ピアノ、弦管打楽器、声楽、リトミック、作曲、音楽学と幅広くご参加いただきました。卒業生のみなさま、まことにありがとうございました！

### プログラム

12:00	受付	講堂ホワイエ
13:00	第2回くにたち賞表彰式 スペシャルトーク&コンサート	講堂小ホール
15:00	懇親ティーパーティー	7号館学生食堂
10:00 ~17:00	くにたち写真展&同調会コミュニケーション・ラウンジ	6号館西棟1階

### 当日の様子

#### ☆「第2回くにたち賞表彰式」 講堂小ホールにて

第2回くにたち賞表彰式は、第1回に引き続き小川哲生同調会幹事代表の司会により、開会しました。はじめに、主催者である山下洋輔会長より「(くにたち賞が)これからも永く続いていくことを願っています」との挨拶がありました。次に、藤沢章彦副会長より、くにたち賞の概要と第3回の推薦受付について説明しました。



(後列左から) 武田学長 (顧問)、山田理事長 (顧問)、小川幹事代表、  
(前列左から) 山下会長、種谷典子さん、白岩優拓さん、藤沢副会長

そして、表彰が行われました。山下会長より受賞者へ賞状と副賞の目録が贈呈され、奨励賞を受賞した白岩優拓さん (作曲家・高校教諭)、種谷典子さん (ソプラノ歌手) がスピーチを行いました。大変残念なことに、大賞の宮田まゆみさん (笙奏者)、奨励賞の下払桐子さん (フルート奏者) はご都合によりご出席が叶いませんでしたが、宮田さんは、本年8月に同調会代議員会にて別途表彰式を行いましたので、その際のスピーチと笙の演奏をしていただいた様子を、スクリーンで上映しました。

奨励賞：白岩優拓さんは、現在ご出身地の北海道で高校教諭として教鞭を執られており、「東京の大学へ進む事は、何も難しい事でもなければ怖い事でもない」と生徒さんの背中を押しておられるそうです。くにたちでは先生や仲間に恵まれ、学生生活をとても有意義に過ごされたことを語ってくださいました。

同じく奨励賞：種谷典子さんからは、今回奨励賞に選ばれたきっかけとして、「第16回東京音楽コンクール」という国際コンクールの声楽部門で2位になられた話を挙げられ、同じく2位だった方が、実は種谷さんの旦那様だったそうです！ご夫婦で同位という珍しい(?)結果に、審査員の方からは、「喧嘩にならなくてよかったんじゃない？」と言われたというすてきなエピソードに、会場は和やかな空気に包まれました。

大賞：宮田まゆみさんは (映像の中で)、大賞を受賞されたことに大変驚いたと感想を述

べられ、また、(スピーチのあとに)演奏する《壺越調の調子》についてご説明いただきました。現在もくにたちで教鞭を執られている宮田さんにとって、人生の半分以上を過ごしているくにたちが、いつまでも繁栄し続けますようにという想いと感謝の意を込めて演奏してくださいました。

最後に、武田忠善学長・同調会顧問より受賞者へ祝辞をいただき、閉会となりました。



## ☆「スペシャル トーク&コンサート」 講堂小ホールにて

### ♪白岩優拓さん

5歳からエレクトーンを習いはじめ、幼いころからご自身にとって平均律が当たり前の音律として頭に入っていたという白岩さん。しかし、くにたちに入ってから、シとドの間には無数の音があるということに驚き、楽曲の中にどうにか入れられないかと考え、微分音の研究をするようになったそうです。

1曲目に披露された《BIRTH I-I (ZERO) ～マリンバと電子オルガンのための～》、そして2曲目の《(Re) BIRTH ～ヴィブラフォンと電子オルガンのための～》はどちらも微分音を使用した作品。素材による音の違いと、電子的に作られた音の対比を作品で表現され、会場では、神経を研ぎ澄ませるように聴き入る方々の様子も印象的でした。



《BIRTH I-I (ZERO) ～マリンバと電子オルガンのための～》  
伊藤すみれさん (マリンバ)、竹蓋彩花さん (電子オルガン)

### ♪種谷典子さん

曲目解説や演奏にまつわるお話を挟みながら、全4曲を披露されました。冒頭で演奏が始まると、伸びやかで美しい歌声が会場に響き渡りました。

種谷さんは、2016年から1年間、文化庁の助成を受けてイタリアのミラノへ在外派遣の研修員として留学され、世界的コロラトゥーラのルチアーナ・セツラ氏に師事していたそうです！プログラムの1曲である《ジュテーム》は、当時の種谷さんに、「狂ったソプラノのための」という副題があなたにピッタリだと、まだ出会って間もないセツラ氏から薦められたことに複雑な気持ちになった…というエピソードを話され、会場は笑いの渦に包まれました。



種谷さんによるソプラノ独唱（ピアノ伴奏：齋藤亜都沙さん）

#### <演奏曲目>

1. 《ドン・パスクワレ》より“あの騎士の眼差しに” G. ドニゼッティ
2. あらわれ C. ドビュッシー
3. ジュテーム I. アブルケル
4. 《キャンディード》より“着飾ってきらびやかに” L. バーンスタイン

受賞者のお二人によるトーク&コンサートでは、それぞれご活躍される姿を垣間見ることができた素敵な演奏とお話でした。

受賞者のみなさま、本当におめでとうございます！

#### ♪ピアノ五重奏

スペシャルトーク&コンサートのラストを飾ったのは、今回のために選ばれた同調会員による室内楽の演奏でした。高尾郁江さん（ピアノ）、船津美雪さん（オーボエ）、生方正好さん（クラリネット）、坪井隆明さん（ファゴット）、井手詩朗さん（ホルン）によるW.A.モーツァルト《ピアノと管楽のための五重奏曲 変ホ長調 K.452》をお送りしました。多方面でご活躍されている演奏家による洗練されたアンサンブルのハーモニーに、会場からは

拍手喝采が起きました。



今回のためのスペシャルメンバーによるピアノ五重奏



☆「懇親ティーパーティー」 7号館学生食堂にて



7号館学生食堂で初めての懇親ティーパーティー！

食堂や学生ホール、喫茶店等が併設されていた1号館は、2017年5月をもって役目を終え、その跡地には新たに7号館が建設され、2019年1月より使用を開始しました。これに

より、「5号館学生食堂」も2018年12月末をもって営業を終了し、「7号館学生食堂」へと引き継がれました。今回は、そのお披露目も兼ねて、「7食」へと会場を新たに「懇親ティーパーティー」を開催しました！

会場は変わりましたが、馴染みのある「食堂のカレー」も振る舞われ、懐かしい味に当時を思い出された方もいたのではないのでしょうか。山下会長の発声で乾杯した後、会は終始和やかな雰囲気で行進されました。毎年恒例のクイズ大会も行われ、最後まで正解した方には素敵なプレゼントが贈呈されました。

くにたち賞大賞の宮田さんにまつわる笙のクイズでは、大学の音楽資料課（楽器室）のご協力で、会場内に本物の笙を展示しました。熱心にご覧になる方、初めて手に取られた方も多かったようです。



#### ☆「くにたち写真展」 6号館西棟1階にて

今回は、例年会場としていた講堂ホワイエから6号館西棟へ場所を移し、本学フルート教授の大友太郎先生（学内同調会会長）が撮りためてくださった鮮やかな色彩の風景写真を展示しました。本学の移りゆくキャンパス構内や歴代の演奏会の様子を、老若男女さまざまな世代の方がご鑑賞くださいました。



#### ☆「同調会コミュニケーション・ラウンジ」 6号館西棟1階にて

ホームカミングデーの新たな試みとして、同調会員が日頃の音楽や教育に関する活動を紹介する「同調会コミュニケーション・ラウンジ」を設置しました。今回は「特定非営利活動法人 高齢者の音楽を考える会」が出展し、著書の紹介や販売を行いました。



「特定非営利活動法人 高齢者の音楽を考える会」のみなさま



「ホームカミングデイ 2019」の報告は以上です。卒業生のみなさま、ご来場まことにありがとうございました。

次回は記念すべき第10回を迎えます！みなさまにさらに楽しんでいただけるよう、特別企画など鋭意計画中です。

次回のホームカミングデイも、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

学内同調会&同調会